

ときわ会

No.157
令和6.7.26
ときわ会
中魚・十日町
広報委員会
題字・楳澤恭一

大地の芸術祭2024「小脇の学校」撮影 元井 啓介 (川西中 13年度)

先人の想いをつなぐ

支部長 山本 平生 (十日町中学校 63年度)



数年前に統合新設される学校の校歌作成に携わったことがあります。作詞作曲を依頼した方からは、子どもや保護者、地域の方の学校への願いを言葉にして集めてほしいと言われました。率直な言葉を集めてお渡ししたところ、後日、素晴らしい歌詞と曲の校歌を完成させてくださいました。それぞれの想いを汲んだ校歌になりました。

♪半年雪の銀世界／自然の試練耐え抜いて／意気滂瀾と萌えいずる／緑の色の鮮やかさ／若人われら健やかに／あおぐ大空輝けり

勤務校である十日町中学校校歌です。♪越後名物数々あれど／明石ちじみに雪の肌…と歌われる十日町小唄の作者、長井白淵（詞）中山晋平（曲）によって作られました。十日町中学校を取り巻く多くの人々の想いを汲んで作られたのだろうと推察されます。

ときわ会歌「松は緑に」も同様です。河本茂、住安政吉 両先達のときわ会への深い愛情や会員の熱い想いが詞と曲に込められていることは想像に難くありません。

校歌、会歌には、その母体の理想や希望、想いが象徴的に表現されています。それが連綿と歌い継がれること

で、先人の想いも伝わってくるのです。

さて、今年度、私たち中魚・十日町支部は、「つまりの地に学び、つまりの教育をリードする中魚・十日町支部」を基本方針とし、3つの柱を掲げて活動を進めることとしました。

- 主体的に学び続ける会員一人一人の「教育力」を高める研修の推進
- 仲間と共に伸びゆく会員一人一人の「つながり」を深める組織の再構築
- 現職会員、OB会員、会員外の人や機関との連携強化

これらは、決して目新しいものではありません。当支部の諸先輩がこれまでも指し示してこられたことでもあります。しかし、コロナ禍からの復興をめざす今だからこそ、今日の教育課題が山積する今だからこそ、大事にしたいことでもあります。

会員同士、会員外の人や機関との「つながり」を大事にし、そして、先人の想いもつないで、中魚・十日町支部の令和6年度の活動を進めていきましょう。